

(別添3)

**【多賀町】
校務DX計画**

1. 校務DX化の現状及び成果

(1) 校務系・学習系ネットワークの分離

教員が使用するネットワークとして、職員室で使用する校務系ネットワークと教室で使用する授業系ネットワークはセキュリティ対策のため、分離した状況にある。

(2) 校務支援システムの整備

令和2年度からは小学校で、令和3年度からは中学校で、オンプレミス型で校務支援システムを整備している。小中学校で統一したシステムであるため、各校間で情報連携がはかれる。

2. 校務DX化の課題

(1) 業務のICT化

FAXや押印・署名の廃止がうたわれている中、各校において業務のデジタル化が完全に進んでいない。デジタルツールの活用により、手続きのオンライン化など、業務イノベーションを進める。

(2) クラウドサービスの充実

令和6年度から、出欠連絡・保護者連絡システム(アプリケーション)を導入したが、さらなる活用が必要となる。特に紙でのお便りをデジタル化することで、印刷・配布作業がなくなり、業務時間の削減につながる。システムの積極的な活用を求める。

3. 校務DX化の今後の計画

(1) ネットワークサーバのクラウド化、ゼロトラスト化の検討

既存ネットワークサーバはオンプレミス型で、物理的な監視が必要になる。異常があったときは現場まで駆けつけての対応で、解決までに時間を要する。クラウド化となると、ヘルプデスクが至急に対応し、以前よりロスなく業務を遂行できるようになるため、学校ネットワークのクラウド化を検討する。

ゼロトラスト化について、校内外問わず、学校ネットワークへのアクセスが可能になると、場所を問わず働くことができる。個人情報保護や、セキュリティポリシーとの兼ね合いを考慮しながら、学校ネットワークのゼロトラスト化を検討する。

(2) 校務支援システムの共同調達、クラウド化

将来的には町内間だけでの情報連携ではなく、他市町間での情報連携がはかれるように、共同利用の校務支援システムへの更新、クラウド化を検討する。検討段階にあた

っては、学校現場の教職員等と情報共有しながら、仕様の作成、システム設計及び調達事務を進める予定である。

(3) 学校ネットワークの統合

校務系ネットワーク・授業系ネットワークに分離している状況において、教室内で使用する端末と職員室で使用する端末が異なっている。各端末間のデータ移行は USB で行っていることもあり、セキュリティ上の観点、業務の簡素化も含めて、ネットワーク統合を検討する。